

## HND34R 着陸機の後流(Wake TURB)で RWY05 の B777 が RT0 !

昨年 12 月、羽田空港 RWY05 を離陸滑走中の JAL ボーイング 777-200 型機が、約 100kt で左エンジン停止 (STALL) によって離陸中断するという事例がありました。

ボーイング社と P&W 社 (エンジンメーカー) を含む合同調査の結果、実際に左エンジンは空気流入の乱れによる ENG STALL が原因で損傷しており、この原因は当該機離陸の約 20 秒前に RWY34R へ着陸したボーイング 737-800 型機により発生した後流 (Wake Turbulence) によるものである、としています。

### 《Wake Turbulence の影響は過去にも報告あり》

羽田空港の RWY05 離陸滑走時において、RWY34R 着陸機による Wake Turbulence の影響で機速 (Air Speed) が不規則に変化するという事例はこれまでも少なからず報告されていました。

しかしながら、ENG 停止による離陸中断にまで至った事例は初めてであり、ALPA Japan も重大な事例として注目しています。



### 《重大な事態につながる可能性もあり、詳細な分析・研究が必要》

航空機の Wake Turbulence の拡散や滞留は、上空の風向や風速、周辺の地形による影響を受けます。ある一定の条件下で、その Wake Turbulence が RWY05 の離陸機に影響すると考えられますが、その条件については詳細な分析・研究が不可欠であり、解明には専門の研究機関の協力が必須と思われれます。

今回の事例では、後方乱気流区分【Medium】の B737 型機の Wake Turbulence でも、後方乱気流区分【Heavy】である B777 離陸機のエンジンへ影響を与えることが判明しました。また今回は離陸中断という結果で済みましたが、RWY05 は周りを海に囲まれており、場合によってはさらに重大な事態となる可能性もあります。

ALPA Japan では、航空局への働きかけも含め、抜本的な対策を講じるために取り組んでいきます。